

園となり、施設種別による保育者1人当たりが担任する園児数の基準の違いが確認された。さらに⑤回答クラスの定員充足率では、保育所の充足率が9割弱と施設全体の場合(表3⑬)同様、他に比べ非常に高い。

2) 学齢に見た回答クラス・保育室の状況：次に保育所と幼稚園について回答クラスの学齢別に状況をまとめたものを表5に示す。同学齢では、定員などの項目で幼稚園と保育所の間で多少の有意差が見られるが、多くの項目で両者の違いを明らかに示す結果は見られなかった。これより同じ学齢のこどもが過ごす環境としては、施設種別による大きな違いはなく、個々の施設による違いが大きいものと考えられる。さらに前章、表3などで施設種別間に見られた違いは、受入学齢を始めとする施設種に応じた制度の違いによるものと推察される。学齢毎の1人当たり面積により保育室の基準を示す保育所と、クラス数による園舎面積(延床面積)の標準とクラス定員を示す幼稚園との間で、園児1人当たりの保育室面積(表5②)の平均値に、3~5歳の混合クラス(混合・上)を除き、有意差が見られない点も興味深い結果となった。

3) 回答クラスにおける処遇規模の評価：回答クラスを担任する上での、その学級の処遇規模(人数規模)に関する印象を、「人数が多い(規模が大きい)」から「人数が少ない(規模が小さい)」の5段階で各担任保育者に評価してもらった。その結果を図11に示す。保育所と幼稚園では、全体として保育所の方がやや「人数が多い」側に評価されている。保育所では0歳児クラスを除いて学齢が低いほど「人数が多い」と評価し、学齢が上がると「人数が多い」と評価する割合は減少する。0歳児クラスでは人数に関して「どちらでもない」の評価が高い割合となった。一方幼稚園では、学

表4 回答保育室の概況(施設種別)注4)

回答クラス概要	項目	保育所			幼稚園			F値	p値	平均値の有意差※
		平均	中央値	標準偏差	平均	中央値	標準偏差			
①回答保育室面積	平均	51.15	47.04	278	57.52	54.71	208	3.83	0.022	
	中央値	47.04	53.75	40	54.08					
	標準偏差	20.31	19.70		12.66					
②園児1人当たりの室面積	平均	3.97	2.99	273	5.87	3.28	202	9.07	0.000	こ>保幼
	中央値	2.99	3.29	37	2.57					
	標準偏差	3.71	5.38		2.62					
③回答クラス定員	平均	20.81	20.00	352	22.52	30.34	314	109.99	<0.0001*	幼>こ保
	中央値	20.00	23.50	56	31.00					
	標準偏差	8.98	10.13		7.29					
④回答クラス現員	平均	17.47	17.00	468	16.38	20.98	365	22.13	<0.0001*	幼>保こ
	中央値	17.00	17.50	60	21.00					
	標準偏差	8.23	8.70		7.90					
⑤定員充足率(現員/定員)	平均	0.89	1.00	346	0.73	0.72	311	40.88	<0.0001*	保>こ幼
	中央値	1.00	0.75	53	0.75					
	標準偏差	0.25	0.24		0.23					
⑥回答クラス担任数	平均	2.32	2.00	468	1.79	1.33	361	86.88	<0.0001*	保>こ>幼
	中央値	2.00	1.00	62	1.00					
	標準偏差	1.31	1.13		0.64					

*一元配置の分散分析 有意水準0.05で水準差の検定(Tukeyの多重比較)

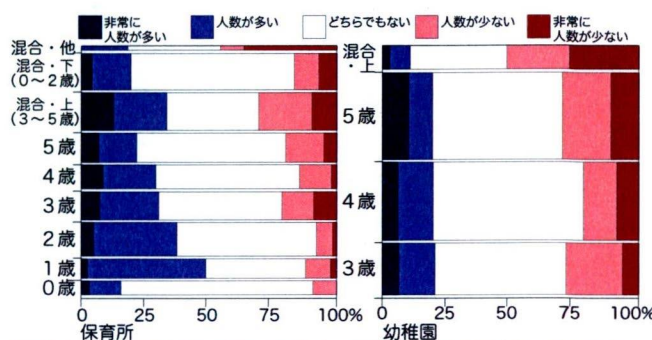


図11 回答クラスの学齢から見た処遇規模に対する評価

表6 回答クラスの諸要素と処遇規模評価の相関(R²値※)

	保育所			幼稚園		
	現員	1人あたり室面積	現員/担任数	現員	1人あたり室面積	現員/担任数
0歳児	0.27	0.24	0.28			
1歳児	0.13	0.44	0.18			
2歳児	0.13	0.14	0.01			
3歳児	0.40	0.40	0.01	0.23	0.30	0.34
4歳児	0.61	0.30	0.22	0.61	0.41	0.33
5歳児	0.45	0.42	0.14	0.53	0.31	0.30
混合・上(3~5歳)	0.49	0.20	0.21	0.58	0.59	0.34
混合・下(0~2歳)	0.13	0.07	0.07			
混合・他	0.02	0.48	0.00			

(※R²: 回帰分析におけるピアソンの相関関係)

表5 回答保育室の概況(学齢別: 保育所・幼稚園)

回答クラス概要	項目	保育所 0歳児		保育所 1歳児		保育所 2歳児		保育所 3歳児		幼稚園 3歳児		保育所 4歳児		幼稚園 4歳児		保育所 5歳児		幼稚園 5歳児		保育所 混合・上		幼稚園 混合・上		保育所 混合・下		保育所 混合・他	
		平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N	平均	N
①回答保育室面積	平均	45.10	20	44.85	27	47.03	39	51.31	32	51.62	46	55.80	26	53.74	64	48.90	35	57.31	74	56.44	43	55.51	18	57.98	50	36.28	5
	中央値	42.40		42.00		44.00		44.38		53.00		52.45		53.56		45.00		55.50		54.73		57.20		54.13		34.40	
	標準偏差	17.51		21.30		14.22		20.78		9.54		18.64		13.70		15.16		13.87		21.46		11.02		26.85		21.57	
②園児1人当たりの室面積	平均	8.76	20	4.64	26	3.21	39	3.76	32	3.34	46	2.98	26	3.37	63	2.52	34	2.80	74	3.37	41	4.96	17	5.00	50	3.64	5
	中央値	5.89		3.34		2.89		2.55		2.75		2.58		2.44		2.28		2.43		2.42		3.31		4.20		2.50	
	標準偏差	8.17		3.72		1.46		3.86		2.51		1.70		3.02		1.38		1.85		4.65		3.69		3.63		2.86	
③回答クラス定員	平均	9.58	29	14.89	35	18.38	48	21.17	42	24.30	74	26.73	40	30.65	99	25.46	50	33.57	106	29.88	48	32.53	30	15.76	53	17.67	6
	中央値	9.00		15.00		18.00		20.00		23.00		28.50		30.00		26.50		35.00		30.00		35.00		15.00		19.00	
	標準偏差	4.73		5.65		5.80		4.56		5.96		8.07		6.11		7.41		4.64		7.94		11.73		7.09		8.50	
④回答クラス現員	平均	8.26	31	13.93	43	16.43	67	17.72	58	18.86	79	21.41	51	21.15	115	22.38	58	23.21	131	22.68	75	17.00	36	13.03	72	11.64	11
	中央値	4.20		15.00		16.00		19.00		19.00		21.00		22.00		21.50		22.00		23.00		16.50		12.50		9.00	
	標準偏差	9.00		5.49		5.91		6.47		6.39		7.05		7.58		7.59		8.32		9.87		7.69		5.70		6.90	
⑤定員充足率(現員/定員)	平均	0.88	28	0.98	34	0.95	48	0.89	42	0.80	74	0.86	40	0.72	98	0.86	48	0.69	106	0.80	47	0.63	29	0.92	52	0.69	5
	中央値	1.00		1.00		1.00		0.96		0.83		0.91		0.77		0.96		0.69		0.90		0.63		1.00		0.78	
	標準偏差	0.29		0.20		0.20		0.29		0.21		0.25		0.24		0.22		0.22		0.25		0.31		0.25		0.32	
⑥回答クラス担任数	平均	3.03	32	3.14	43	3.04	67	1.65	57	1.42	77	1.54	51	1.32	114	1.60	60	1.26	129	1.68	74	1.31	36	3.25	71	2.09	11
	中央値	3.00		3.00		3.00		2.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		1.00		3.00		2.00	
	標準偏差	1.36		1.23		1.19		0.77		0.59		0.64		0.78		0.87		0.49		0.89		0.62		1.44		1.38	

■: 保育所と幼稚園の平均値に有意差がみられた項目(t検定: 有意水準0.05)

齢に関係なく評価の傾向はほぼ一定である。また、異年齢が混在しているクラスもある。保育所の場合、園児が少ないために複数の年齢児による混合クラスを設けるケースも、異年齢児の交流等を目的として積極的に異年齢児混合クラスを設けるケースもある。このため、特に3～5歳児の混合クラス（混合・上）では、人数が多い側と少ない側のいずれの評価も比較的多く見られる。保育士1人当たりの園児数が規定される保育所に対し、クラス定員が定められる幼稚園では、混合クラスであっても人数が多いという評価は年齢別クラスに比べ多くないが、人数が少ないとする割合が多い。このことから幼稚園では、混合クラスを採用している多くのケースで、各年齢児数が少ないことを理由としていることが推察される。

次にそれぞれの回答クラスの①現員、②園児1人当たり室面積、③担任1人当たりの園児数が、処遇規模の評価にどのように影響しているかを見るため、これら①～③と処遇規模評価の評定値の関係を回帰分析により考察した。表6に①～③それぞれの回帰直線のあてはまりをピアソンの相関関数 R^2 を用いて示す。これよりあてはまりが良い（ R^2 が1に近い）ほど、それぞれの項目と評定値の関係が強いと読み替えると、保育所、幼稚園共に4歳児以上のクラスでは、1人当たりの室面積よりもクラスの現員の方が評価に与える影響が強いことが分かる。1, 2, 3歳児クラスでは1人当たり面積の方が評価への影響がやや強くなるが、全体として低年齢クラスでは①～③による評価の影響が弱くなる傾向が見られた。また4, 5歳、混合・上（3～5歳）クラスにおける現員による評価の影響は幼稚園でより強く表れる。さらに保育所の設置基準に示される保育室の1人当たり面積と処遇規模評価との関係を見たところ、設置基準面積の値よりも1人当たりの保育室面積が狭いクラスでは、保育所、幼稚園共に各学齢で「人数が少ない」側の評定はほとんど見られなかった^{※7}。

E. まとめと今後の展望

本稿における全国アンケートの集計・分析により子ども施設の施設および保育室の状況として以下のことが明らかとなった。

1) 施設の状況は、人数規模・面積など施設規模は、こども園、幼稚園が保育所よりも大きい傾向がつかめた。特にこども園は、全体的に施設の規模が保育所、幼稚園よりも大きい傾向が見られた。

2) クラス数と延床面積の関係は、保育所、幼稚園でほぼ同様の傾向を示し、1クラス増えるとおよそ100㎡の延床面積が増す。

3) 保育所で6クラス（または延床面積930㎡）、幼稚園で4クラス以上（または延床面積735㎡）の規模になると施設建物が2階建て以上になる確率が5割を超える。

4) 施設建物の広さについて、職員は実感として捉えにくい様子が窺える。しかし、保育所では他に比べ、園庭、遊戯室を狭いと感じる傾向が高くなっている。

5) 学齢別に保育室の状況をまとめると、保育所と幼稚園の間で設置基準による定員、クラス数、担任数等の違いが確認されたが、同じ学齢のこどもが過ごす空間規模として比較すると、両施設の間に大きな違いがないことが分かった。

6) 処遇規模に関する担任保育者による評価は、学齢が大きいクラスでは現員数による影響が見られ、学齢の小さいクラスでは園児1人あたりの保育室面積がやや影響を与えている。

こども施設は、それぞれに異なる設置基準の下整備が進められてきたが、実際には保育室の1人あたり面積などに施設種別による大きな違いはないことが明らかとなった。これより、現在制度の一元化の検討が進められる就学前保育施設において、面積基準などの統合を図ることは、現実的かつ効率的と考える。しかし一方で、こどもを処遇する際の人数規模に応じて、保育者の評価に変化が見られることに着目すると、こども1人あたりの面積ではなく、処遇規模に関する検討がより慎重に重ねられるべきといえる。

今後は、本稿を元にさらに地域別傾向を探るなど分析を深化させると共に、同アンケート調査で収集した、①保育活動の場面ごとに見た施設の広さ、②施設に関する印象、③保育室内に設置されるコーナーなどに関する評価を中心に考察を進める予定である。また現在、別途開始している実態観察調査とこれらの評価をあわせ総合的な分析を試みる。さらにアンケート調査より収集した③保育者から見た保育活動における最適な人数規模や保育室に対する最適密度の理想値と、抽出施設において現在実施している観察調査およびヒヤリング調査結果を統合し、現場の実態から見たこども施設の規模について考察を進める。これより、こども施設における具体的場面・実状に即した空間規模に関する指標を提示することを目標とする。

G. 研究発表

1. 論文発表

本稿は、日本建築学会技術報告集（査読論文集）に投稿中であり、現在査読審査中である。

2. 学会発表

本稿は2009年3月14日に開催される「第1回こどもの「環境と空間」研究会」にてその成果を口頭発表する予定である。また、2009年日本建築学会大会（東北）で行われるオーガナイズドセッション（計画部門）にてその一部を下記の通り報告する予定である。

倉斗綾子，他：『各種就学前保育施設における施設状況とその差異について —全国保育施設アンケート調査より—』

謝辞

御多忙な中、アンケート調査にご協力をいただいた各施設職員の方々に深甚なる謝意を表します。なお、本調査・研究は厚生労働省政策科学総合研究事業「保育・生活場面の展開と心身や空間把握能力の発達からみた保育施設環境の所要規模に関する研究」の一環として行ったものである。

注1) 幼稚園：園舎は2階建て以下を原則とする。園舎を2階建て及び特別な事情があるため3階建て以上とする場合には、保育室、遊戯室、便所の施設は1階に置かなければならない。保育所：2階以上に保育室または遊戯室（園児の使用部分）を設ける場合は、全て耐火建築物としなければならない。

注2) 得られた評定の3割を超える「どちらでもない」を除外した場合も、施設種別による評定平均の有意差はない。さらに建物の広さ評価と施設の1人当たり面積（表3⑧）との間にも相関は見られなかった。

注3) 半屋外空間が遊戯室的な利用を想定した空間と仮定し、遊戯室面積と半屋外空間の有無の関係についても考察したが、両者の関係はいずれの施設においても見られなかった。

注4) 表4、表5において、回答保育室の面積を集計した結果、155～200㎡の間にデータが存在せず、200㎡以上に13件のデータが存在したが、一般的な実態と比較して200㎡以上の保育室は分析から除外することとした。

注5) 幼稚園の回答より2歳児クラスについて回答するものが1件見られたが、こども園と同様の理由から本章における分析から除外した。

注6) 認可保育所においては、児童福祉法による児童福祉施設最低基準により、以下の児童数につき1人の保育士を配置するように定めている。乳児（0歳）3人、満1歳以上3歳未満6人、満3歳以上4歳未満20人、満4歳以上30人。一方幼稚園では一学級の定員を35人とし、1学級に1人以上の教諭の配置を定めている。

注7) ③担任1人当たりの現員数は、園児の処遇に関する評価に直接影響すると思われたが、保育所では0歳児クラスでこの影響が最も大きく出た。他のクラスでは①、②に比べ評価への影響が弱く、幼稚園でも同程度であった。

参考文献

- 1) 山田あすか・佐藤栄治・樋沼綾子・佐藤将之：自治体と旗艦施設へのヒアリング調査による幼保一体化施設の運営実態に関する報告、日本建築学会技術報告集、第25号、pp231-236、2007.6
- 2) 藤田大輔、山崎俊裕「幼稚園各室・空間における保育活動の時間的特性について」日本建築学会計画系論文集、第599号、pp.203-208、2006.1
- 3) 山田あすか・佐藤栄治・佐藤将之・樋沼綾子「幼保一体型施設における運営様態、混合保育、活動場所の変遷に関する研究」日本建築学会計画系論文集、第625号、pp.543-550、2008.3
- 4) 熊倉高志、柳田武、長野豊「平面分析からみた保育空間の面積構成について：保育施設の環境整備に関する研究（その2）」日本建築学会大会学術講演会梗概集、E分冊、pp.459-460、1986
- 5) 山田恵美、佐藤将之、山田あすか「自由遊びにおける園児の活動規模と遊びの種類およびコーナーの型に関する研究」日本建築学会計画系論文集、第74巻、第637号、2009.3

アンケート調査に関する説明書

「保育・生活場面の展開と心身や空間把握能力の発達からみた保育施設環境の所要規模に関する研究」
このアンケートは「全国子育て支援ネットワーク「子育てネット」および「全国学校総覧 2008 年度版」
に記載されている認可保育所、認定こども園、国公立・私立幼稚園にお送りしています。

施設実態に関するアンケート

2008年7月

私どもは、保育所の不足、幼保一体、認定こども園の新設など、複雑化しつつある今日の保育施設の実状を把握し、よりよい保育環境を整備するための知見を得ることを目的として、研究活動を行っている研究グループです。

この度、研究の一環といたしまして、保育所・幼稚園・こども園に関する施設規模の実状を把握することを目的として、別紙のようなアンケート調査を企画いたしました。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、何卒研究の趣旨をご理解の上、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

※本調査には、**主として3歳児を担任していらっしゃる方がお答え下さい**。なお、3歳児を受け入れていない、もしくはご都合により3歳児の担任の方が**お答えに出来ない場合には他の学齢についてでも結構です**。何卒ご回答くださいますようご協力よろしくお願いいたします。

※いただきました情報は統計的に処理し、研究以外の目的には使用いたしません。

※アンケートにお答えいただいた施設には、全国の施設事例へのアンケート調査の結果と、全国的にみた御施設の位置づけを示した資料をお送りする予定です。御施設の環境をよりよくするための一助となれば幸いです。

<回答の送付方法>

ご回答（および添付資料）は、**同封の封筒に入れて**ご郵送下さい。また、郵送後に追加していただく資料などがございましたら下記までFAXにてお送りいただいても結構です。ご多忙のところ誠に恐縮ですが、**2008年8月11日まで**にご返送いただければ幸いです。また、**期日を過ぎましてもご回答をお待ちしております**ので、ご協力いただけますよう何卒よろしくお願いいたします。なお、本用紙はお手元に保管いただき、本アンケートに関してご質問などがございましたら下記、担当者：^{くらかず}倉斗までご連絡下さい。

【送付先】〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学学術院

0 代表：佐藤将之研究室 FAX：04-2947-7016

【連絡先】担当者：倉斗綾子（母子愛育会リサーチレジデント・早稲田大学客員研究員）

E-mail：r.kurakazu@kurenai.waseda.jp

Tel(mobile):080-2094-2718 FAX：04-2947-7016

研究グループ 代表：佐藤将之 早稲田大学人間科学学術院 助教 博士（工学）

研究メンバー：山田あすか（立命館大学）、倉斗綾子（母子愛育会リサーチレジデント）

橋本雅好（椋山女学園大学）、古賀誉章（東京大学生産研究所）



裏面に回答記入例がございます→

アンケートの回答記入例

<記入例>

以下の設問につきましては、下記の回答例に従いご回答下さい。
 また、2-12は保育室の見取り図の記入が困難な場合には、コーナーの名前(機能)と広さのみでもご記入下さいますようお願いいたします。



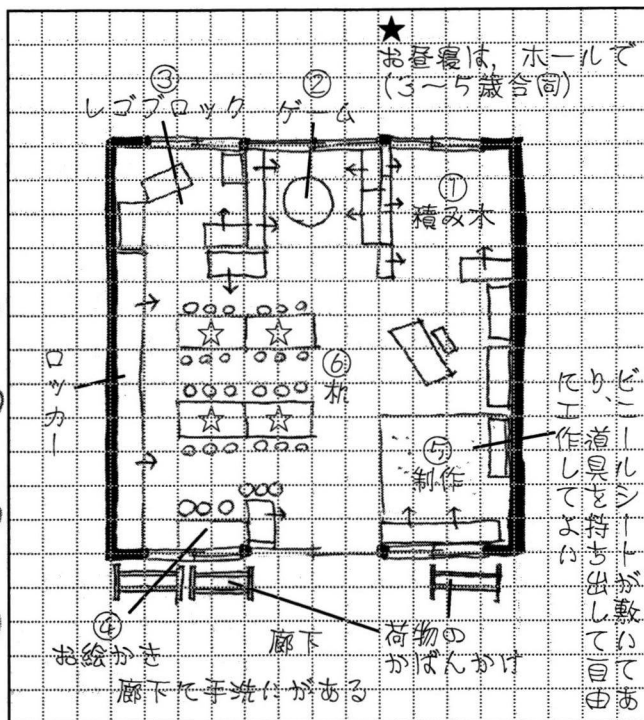
2-10.

a. 水平 高さ:(2.7) m	b. 傾斜	c. その他

梁などの多少の
でっぱりがあっても、
水平と見なし
ていただいて結構
です

2-12.

- ① (積み木) コーナー
: 約 (2) (m²・量)
- ② (ゲーム) コーナー
: 約 (2) (m²・量)
- ③ (レゴブロック) コーナー
: 約 (2) (m²・量)
- ④ (お絵かき) コーナー
: 約 (1) (m²・量)
- ⑤ (制作) コーナー
: 約 (2) (m²・量)
- ⑥ (机) コーナー
: 約 (3) (m²・量)



2-14.

① 食事・おやつのための場所

いずれかに○↓

保育室以外	室名:	
保育室内	2-12の()コーナーの場所を片付けて行う	
	2-12図中の☆印の場所を利用	<input type="radio"/>

② 午睡(お昼寝)のための場所

いずれかに○↓

保育室以外	室名: ホール	<input type="radio"/>
保育室内	2-12の()コーナーの場所を片付けて行う	
	2-12図中の★印の場所を利用	



お忙しいところ恐縮ですが、アンケートへのご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

施設名： (保育所・幼稚園・こども園) ←いずれかに○

回答者氏名： 回答者の保育歴： 年

1. 施設全体についてお答え下さい。なお質問1-1～1-4に関しましては、質問に対応する資料を添付していただくことで回答と代えていただいても結構です。

1-1. 施設全体の敷地面積： m² ※面積の記入はできれば小数第一位程度までで結構です (記入例：54.3m²)

1-2. 施設建物の階数： 階建て建物の 階～ 階部分

1-3. 施設全体の延床面積 (各階の床面積の合計)： m²

1-4. 今年度の学齢別の園児数とクラス数、各保育室の面積をご記入下さい。なお、学齢が複数クラスの場合は、平均の面積をご記入下さい。

0歳児： <input type="text"/> 人	クラス数： <input type="text"/>	→1クラス当たり平均 <input type="text"/> m ²
1歳児： <input type="text"/> 人	クラス数： <input type="text"/>	→1クラス当たり平均 <input type="text"/> m ²
2歳児： <input type="text"/> 人	クラス数： <input type="text"/>	→1クラス当たり平均 <input type="text"/> m ²
3歳児： <input type="text"/> 人	クラス数： <input type="text"/>	→1クラス当たり平均 <input type="text"/> m ²
4歳児： <input type="text"/> 人	クラス数： <input type="text"/>	→1クラス当たり平均 <input type="text"/> m ²
5歳児： <input type="text"/> 人	クラス数： <input type="text"/>	→1クラス当たり平均 <input type="text"/> m ²

1-5. 施設全体の部屋についてお聞きします。以下より、施設にある部屋は□に✓を記入し、その部屋の室数/箇所数、面積 (複数ある場合は合計) をご記入下さい。

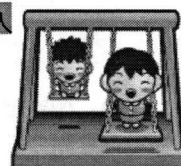
保育室 <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 室	乳児室 <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 室
ほふく室 <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 室	遊戯室 <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 箇所, <input type="text"/> m ²
ホール <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 箇所, <input type="text"/> m ²	職員室 <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 箇所, <input type="text"/> m ²
便所 <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 箇所, <input type="text"/> m ²	倉庫 <input type="checkbox"/> : <input type="text"/> 箇所, <input type="text"/> m ²
その他 <input type="text"/> 室 : <input type="text"/> m ²	その他 <input type="text"/> 室 : <input type="text"/> m ²
その他 <input type="text"/> 室 : <input type="text"/> m ²	その他 <input type="text"/> 室 : <input type="text"/> m ²

1-6. 施設の定員および本年度 (2008 年度) の職員数、園児数

園児数： 現員合計： 人 定員： 人

職員数： 保育職フルタイム 人 保育職パートタイム 人

保育職以外 (管理・調理・清掃・送迎など) 人



1-7. 施設の各場所に関する印象をお伺いします。最も近いものに○をつけて下さい。

	非常に そう思う	そう思う	どちらで もない	そう思う	非常に そう思う	
①園庭など (屋根がかかっていない) 屋外の遊び場	広い					せまい
②建物全体	広い					せまい
③遊戯室 (またはホール)	広い					せまい

④半屋外空間 (屋外だが屋根のかかっている場所) がありますか。

ない	ある		
	便利	不便	使っていない

「不便」「使っていない」理由をご記入下さい。

↑いずれかに○

2. 保育室についてお答え下さい。

■■以下、ご自身が担当しているクラスの保育室での活動や印象についてお答え下さい■■

2-1. 担任しているクラスの名称： ←「〇〇組」「〇〇クラス」など

2-2. その保育室を使っている園児の学齢： 歳

2-3. その保育室の定員： 人

2-4. クラスの園児数：男子： 人，女子： 人

2-5. クラスの担任数： 人→うち特別支援担任： 人



2-6. クラスの現園児数（＝処遇規模）について、こどもを保育する側からどのような印象をお持ちか、最も近いものに○をしてください。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思う	非常にそう思う
人数が多い (規模が大きい)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
人数が少ない (規模が小さい)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2-7. 部屋の面積： (m²・畳) ←単位を選んで○で囲んでください

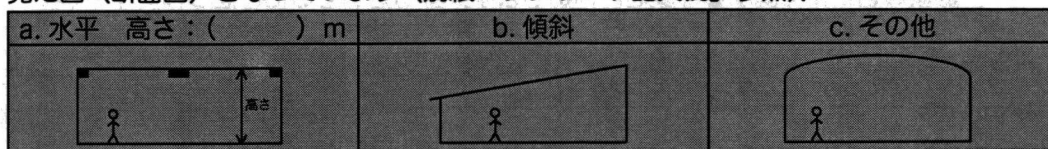
2-8. 以下の活動を行う際の保育室の印象として、保育者（ご自身）と園児のそれぞれの立場から最も近いと思うものに○をしてください。

		とてもせまい	せまい	ちょうどいい	広い	とても広い
①設定保育の時	保育者にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	園児にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②自由保育の時	保育者にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	園児にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③食事（昼食・おやつ）の時	保育者にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	園児にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④お昼寝の時	保育者にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	園児にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤延長保育で (いずれかに/) 利用する <input type="checkbox"/> → 利用しない <input type="checkbox"/>	保育者にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	園児にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2-9. 保育室の様子についてご自身の印象に最も近いものに○をしてください。

	非常に そう思う	そう思う	どちらで もない	そう思う	非常に そう思う
① 落ち着いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 開放感がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ にぎやか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ すっきりしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2-10. 保育室の天井の形状を以下の図より最も近いものを選んで記号を○で囲んで下さい。（平面形の天井の場合は、床から天井まで高さを記入してください）なお、図は空間を横から見た図（断面図）となっています（別紙「アンケート記入例」参照）。



2-11. その保育室の天井の高さの印象として、保育者と園児のそれぞれの立場から最も近いと思うものに○をしてください。

		とても低い	低い	ちょうどいい	高い	とても高い
保育室の天井の高さ	保育者にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	園児にとって	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2-1 2. その保育室に家具などでしつらえているコーナーはありますか。ある場合は、そのコーナーの名前（機能）と広さをご記入下さい。また別紙の「アンケート記入例」にならって右下の枠の中に保育室の見取り図（部屋の中のコーナーの大まかな位置）をご記入下さい。

① () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
② () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
③ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
④ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
⑤ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	
⑥ () コーナー : 約 () (m ² ・畳)	

2-1 3. 保育室内にしつらえられているコーナーの数は、こどもたちの遊びの様子からみてどのような印象ですか。

コーナーの数	ない	ある				
		少なすぎる	少ない	ちょうどいい	多い	多すぎる

2-1 4. **食事・おやつや午睡（お昼寝）**のための場所はどこですか。保育室内の場合は、2-12で回答したどのコーナーで行うかを教えてください（別紙「アンケート記入例」参照）。

①**食事・おやつ**のための場所

いずれかに○↓

保育室以外	室名:	
保育室内	2-12の()コーナーの場所を片付けて行う	
	2-12に描かれた図中の☆印の場所を利用	

②**午睡（お昼寝）**のための場所

いずれかに○↓

保育室以外	室名:	
保育室内	2-12の()コーナーの場所を片付けて行う	
	2-12に描かれた図中の★印の場所を利用	



質問は次のページも続きます。→

3. 園児の活動についてお答え下さい

3-1. 保育室の中で園児が現在よく行っている遊びはなんですか。以下より多く見られるものを選び、記号を○で囲んで下さい (3つまで)。

- | | | |
|---------------|---------------------------|-------------|
| A. 読書・読み聞かせ | B. 制作 (工作・粘土・折り紙など) | C. お絵かき |
| D. 積み木・ブロック遊び | E. その他のおもちゃ遊び, 道具・物を使った遊び | |
| F. 追いかっこ | G. ままごと遊び | H. その他ごっこ遊び |
| I. お遊戯・ダンス・体操 | J. その他: () | |

3-2. 保育室で行われる園児の遊びのうち、よく見られる集団の規模はどのくらいですか。以下より近いものを2つ選んで記号を○で囲んでください。

- | | | |
|-------------|--------------|-------------|
| A. 1人であそぶ | B. 2~3人であそぶ | C. 4~6人であそぶ |
| D. 7~9人であそぶ | E. 10人以上であそぶ | |

3-3. この学齢の園児に最も適した保育集団の人数 (=それぞれの学齢の保育に適した人数) は何人程度とお考えですか。およその数字でお答え下さい。

およそ () 人

3-4. この保育室で保育する際に適していると思われる人数 (=部屋の大きさに適した人数) は何人程度とお考えですか。およその数字でお答え下さい。

およそ () 人

4. このアンケートは、保育施設における所要室規模 (広さなど) に関する知見を得ようとするものです。現在お使いになっている施設の中で早急にその規模 (広さ) を見直す必要がある、と感じている場所がありますか。ございましたら、以下にその場所とそう感じる理由をご記入下さい。

5. 今後の研究活動として、いくつかの施設での詳しい調査を検討しています。その一環で御施設の見学・調査をお願いすることがある場合、ご許可いただけますか。

見学・調査を (許可する・許可しない) ←いずれかを○で囲んでください



▲▼質問は以上です。ご協力ありがとうございました▼▲

保育・生活場面の展開と心身や空間把握能力の発達からみた保育施設環境の所要規模に関する研究」研究グループ

アンケート調査 集計結果<大問1：施設編>

<資料2>

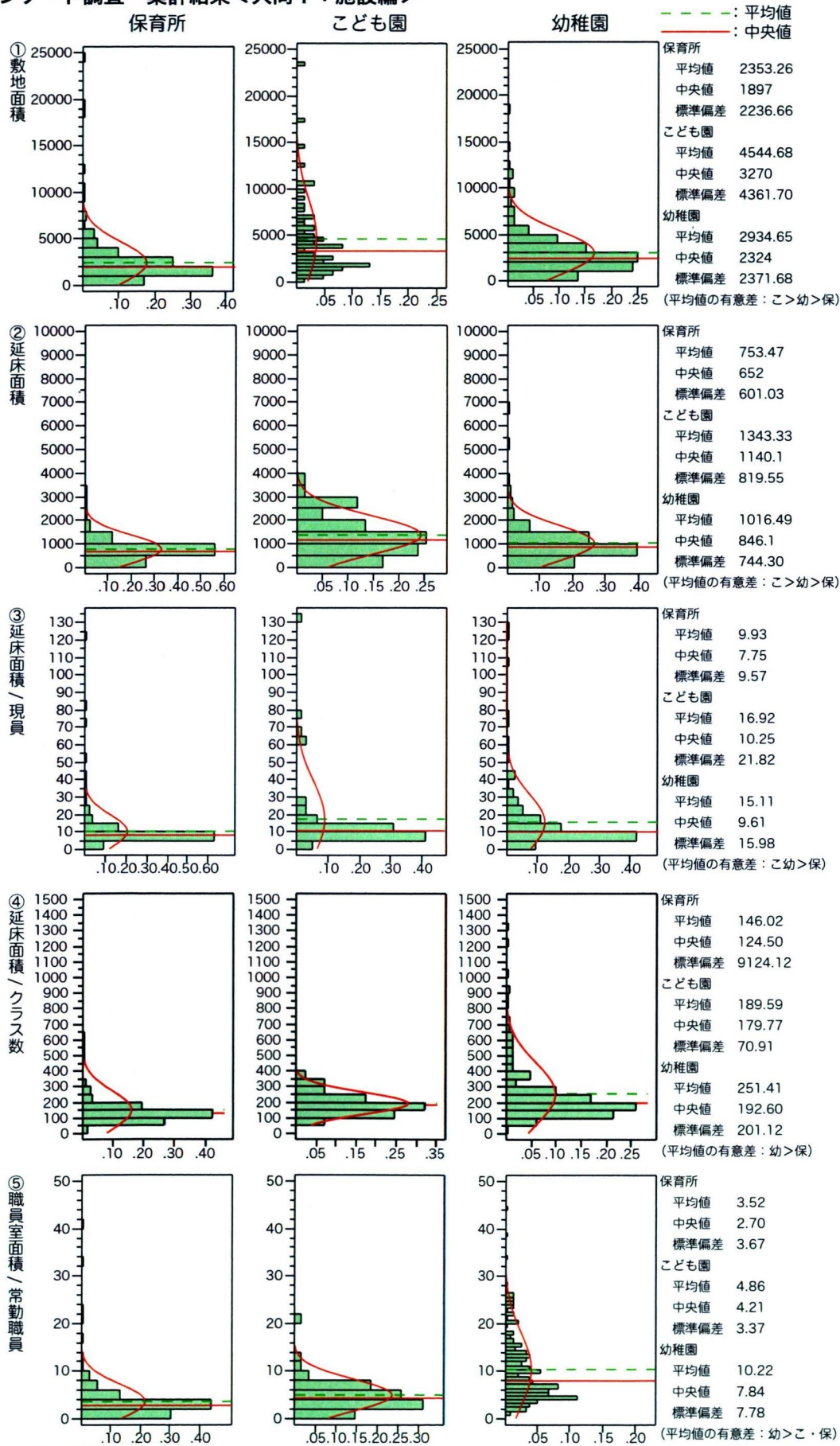


図1-1 施設の状況

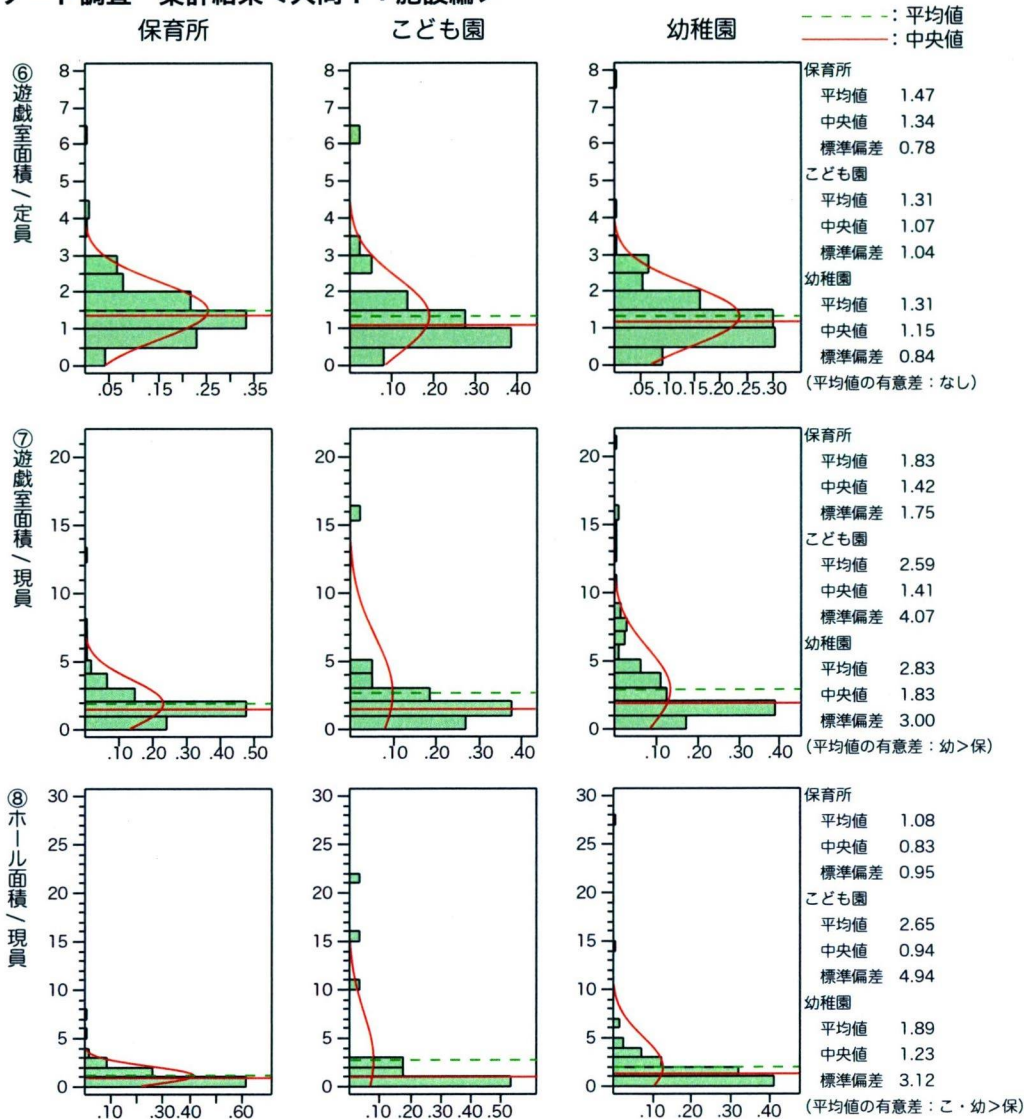


図1-2 施設の状況

■大問1：施設について（補足）

- ①敷地面積，②延床面積などは保育所が比較的小規模な結果となっており，幼稚園，こども園は規模が大きい。特に設立経緯により，保育所型，幼稚園型，幼保連携型などと多様な施設形態となっているこども園は分散も大きい。
- ③現員1人当たりの延床面積は，本編でも述べたとおり保育所 (9.93 m²/人) で他の施設よりも小さい値を示している(有意差有り)。また，本編3ページ目の表3に示すように延床面積/定員では有意差が見られなかったが，④1クラスあたりの延床面積では，幼稚園と保育所の間で有意差(幼>保)が見られた。幼稚園の設置基準(1クラスあたりおよそ100 m²)と比較すると，保育所で約1.5倍，こども園で約1.9倍，幼稚園では2.5倍となっている。
- 本編4ページ目でも述べているように，職員室の

- 広さは，幼稚園，こども園で保育所よりも有意に広がっている。⑤常勤職員1人あたりの面積で比較するとその差はさらに顕著である。
- 遊戯室の広さの差は本編3ページ目表3に示したとおりであるが，遊戯室面積を定員数で除した結果(⑥)では有意差は見られず，設計時に計画される児童1人あたりの遊戯室面積は，1.3～1.5 m²程度と施設種別により大きく変わらないことが分かる。しかし，実際に施設を利用する児童数(=現員)1人あたりの遊戯室の面積(⑦)では，幼稚園と保育所の間で有意差(幼>保)が見られる。
 - 現員1人当たりのホール面積(⑧)は，保育所，幼稚園で遊戯室よりも狭い。ホールを遊戯室と兼用する場合を想定し，ホールと遊戯室の面積の関係をみたが，こども園と幼稚園で弱い(R²=0.2程度)正の相関が見られる程度であった。

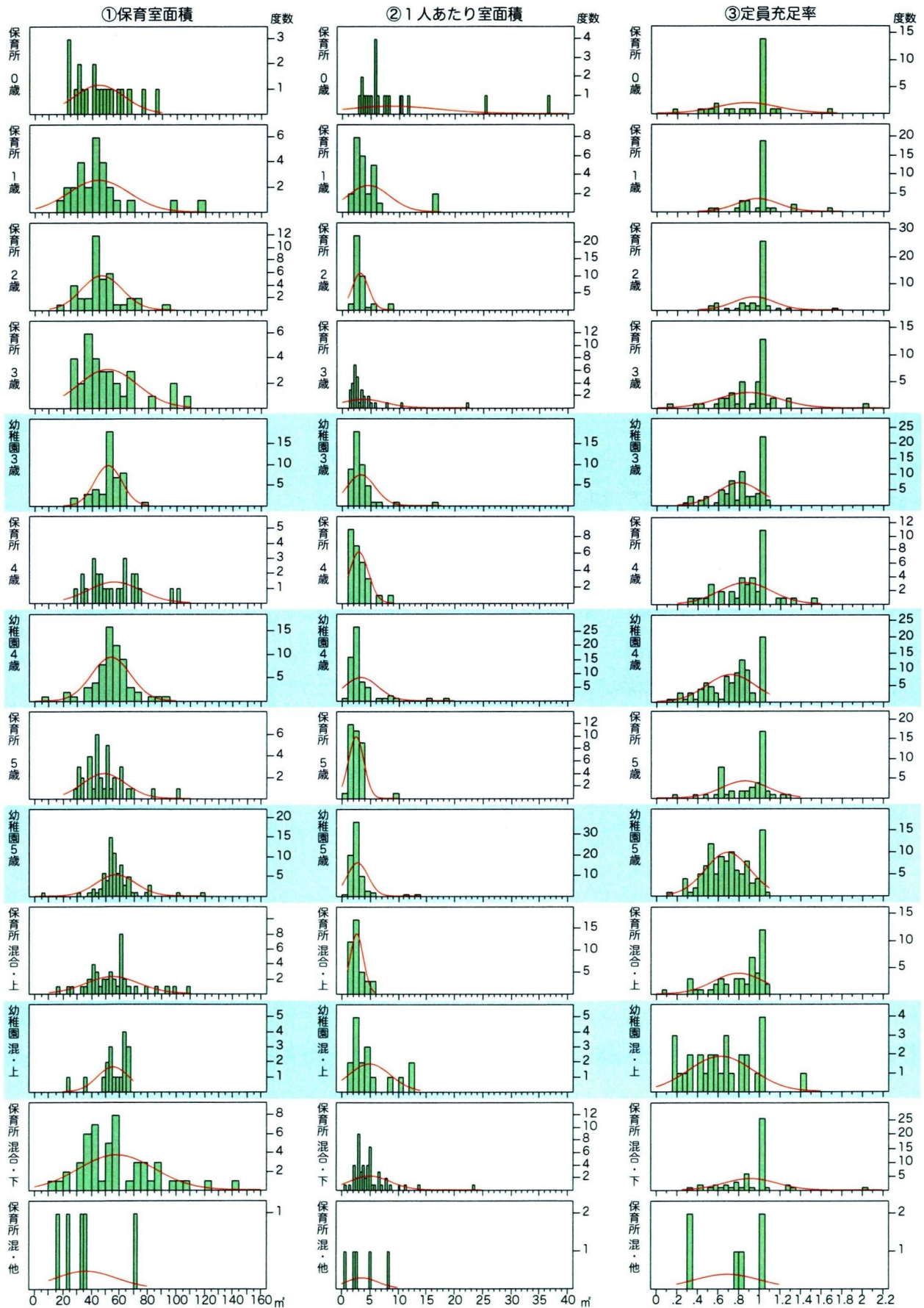


図2 保育室の面積と定員充足率

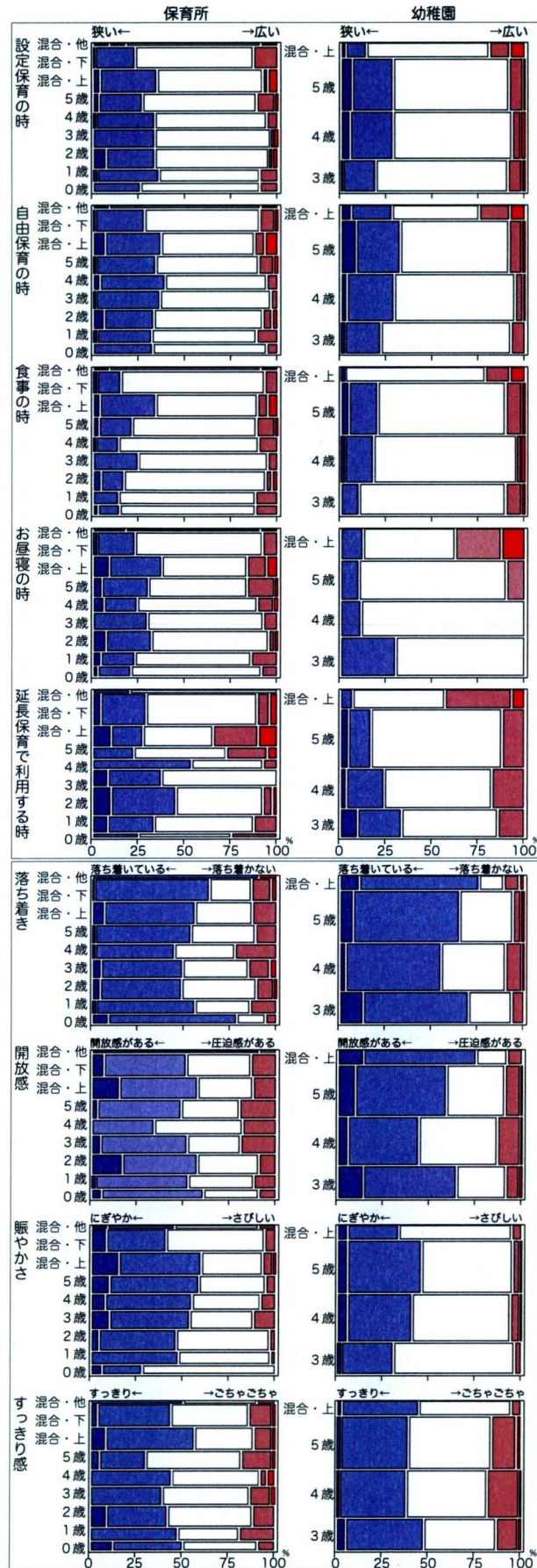


図3 保育者から見た保育室の印象評価

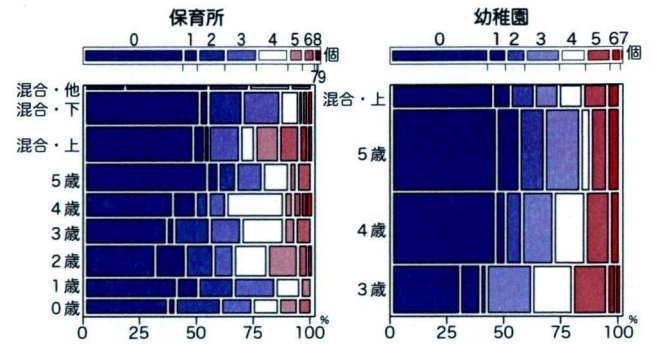


図4 保育室内のコーナー設置数

■大問2：保育室について（補足）

- 1) 図2①保育室の面積は、40～60㎡あたりが最も多く、比較的低学齢クラスの方が各例の高いクラスの保育室よりもばらつきが大きい。
- 2) ②1人あたりの保育室面積は乳児では1人20㎡を超える例も散見された。3歳以上では、保育所、幼稚園共に2～3㎡/人が最も多く、保育所の1人あたり基準（2歳以上は1人につき1.98㎡以上）を満たすつくりになっている。
- 3) 本編でも述べたとおり、図2③定員充足率は保育所で幼稚園より高く、定員を超えて児童を受け入れている施設も散見できる。
- 4) 図3は、活動場面毎に保育者の立場での担当する保育室の印象を訪ねた結果である。広さに関する評価では、いずれも若干保育所の方が「狭い」側に評価しているが、評価の有意な差は見られなかった。いずれの項目においても「ちょうどいい」の回答が最も多いが、これは保育者は客観的視点で利用している部屋を評価する機会があまりないため、現状の広さに対応した活動を展開することから、「広い」「狭い」などの評価がしにくいものと推察される。
- 5) 落ち着き、開放感などの保育室の印象評価については、広さに関する評価よりもやや傾向が見られ、いずれの項目においても、自分が利用している保育室に対しては、プラスの印象がマイナスの印象よりも多いといえる。
- 6) 図4は、利用している保育室内のコーナーの状況を平面図とコーナー名称により記載してもらった結果より、記載されているコーナー数を集計したものである。これより学齢別、施設種別による特徴などは現れなかったが、今後はそれぞれのコーナーの機能、広さなどからさらに分析をする予定である。

項目	保育所	幼稚園
所轄	厚生労働省 ・市町村	文部科学省 ・国立：文部科学省 ・公立：教育委員会 ・私立：都道府県
対象	保育に欠ける 乳幼児 乳児：1歳未満 幼児：1歳から小学校就学まで (児童福祉法第4条, 39条) 市町村は保育に欠ける乳幼児の保育が義務となっている	満3歳～小学校就学まで (2歳児の保育実施も可) (学校教育法第80条)
入所・入園の 手続きと条件	市町村が条例に沿って「保育に欠ける」と認められた児童 申込み：保護者→市町村	保護者の判断により幼児教育を希望した場合 申込み：保護者→園設置者
入所入園時期 退所退園時期	保育に欠けた状況が発生した時 保育に欠ける状況がなくなった時	一般に年度の初め(4月)～年度終わり(3月) 満3歳の誕生日から入園可能(2歳児の保育実施も可)
保育時間	原則8時間 ただし家庭の状況に応じて変更可能(夏休み・春休みはなし)	4時間を標準とし、原則年間39週を下回ってはならない。(預かり保育により延長可能)
保育者の資格	保育士資格証明書(児福法施行令第13条)	幼稚園教諭普通免許状(教育職員免許法)
設置の基準 運営の基準	児童福祉施設最低基準第32条(厚生労働省令) (児童福祉法第45条)	学校教育法施行規則第74～77条 幼稚園設置基準(文部科学省令) 学校教育法第3条
保育者の配置	保育士1人に対し ・0歳児…3人 ・1,2歳児…6人 ・3歳児…20人 ・4,5歳児…30人	1学級あたり幼児35人以下とし、1学級に1人以上の担任教諭を配置する
建物に関する 基準(抜粋)	保育室または遊戯室 ・0歳児：1人につき4.95㎡以上 ・1歳児：1人につき3.30㎡以上 ・2歳児以上：1人につき1.98㎡以上 乳児室 満2歳に満たない幼児 1人につき1.65㎡以上 ほふく室 満2歳に満たない幼児 1人につき3.30㎡以上 構造 乳児室、ほふく室、保育室又は遊戯室を2階以上に設ける場合は耐火建築とするなどの構造及び仕上げ材の制限が設けられる。	園舎の面積 ・1学級：180㎡ ・2学級以上：320+100×(学級数-2)㎡ 構造 園舎は2階以下を原則とし、保育室、遊戯室及び便所は、一階に設置する。これらの室を階に設置する場合は、耐火建築であることなどの制限が設けられる。

■■認定こども園の基準など■■

平成18年10月よりスタートした「認定こども園」制度については、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」を根拠法令とする。施設の整備などについては、幼稚園、保育所の各基準に準拠する形で進められている。以下、幼保連携推進室(厚生労働省・文部科学省)ホームページより抜粋。

- 幼稚園、保育所等のうち、認定基準を満たす施設は、都道府県知事からの認定により「認定こども園」とすることが出来る
- 職員配置：0～2歳児については、保育所と同様の体制
3～5歳児については、学級担任を配置し、長時間利用児には個別対応が可能な体制
- 職員資格：0～2歳児については、保育士資格保有者
3～5歳児については、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が望ましい
- 入園手続き：認定こども園の認定を受けた施設は、保育所であっても、利用者と施設との直接契約による利用となり、利用者は利用料を直接施設に支払う

保育者から見た保育室・保育規模に関する考察 全国就学前保育施設アンケート調査より

研究協力者：倉斗綾子 (首都大学東京大学院都市環境科学研究科 客員研究員)

分担研究者：山田あすか (東京電機大学未来科学部建築学科 准教授)

研究代表者：佐藤将之 (早稲田大学人間科学学術院 助教)

分担研究者：古賀誉章 (東京大学 大学院工学系研究科 特任助教)

研究要旨

現存する就学前児童の保育を行う施設は、各々異なる法の下異なる基準が設けられている。しかし、昨年度実施した全国アンケート調査より、同じ学齢の児童が使用している環境は施設種別により大きな差がないことが明らかとなった。そこで本年度は昨年度行った全国の幼稚園・保育所・認定こども園を対象としたアンケート調査より、保育者から見た保育規模および保育室面積基準に関する分析・考察を行った。その結果、保育者が理想とする保育の処遇規模についてみると、3歳以上のクラスでは、幼稚園保育所とも現行基準では多くの保育者が多すぎると感じていることが理解された。また保育者の理想とする保育室面積について、同学齢では幼稚園と保育所に大きな差が見られず、保育の質が異なっても、同じ年齢のこどもが育つ環境としてはほぼ同様の広さが求められていることが明らかとなった。

A. 背景と目的

A. 1 背景

我が国で就学前の乳幼児の保育を行う施設や制度には、幼稚園や保育所、認定こども園、無認可保育所、家庭保育福祉員等がある。これまでそれぞれの施設がそれぞれの法の下で考えられた、こどもの健全な発育を支える環境として整備されてきた。しかし近年、女性の社会参画や少子化などを背景とした保育サービスの高騰による保育所の不足、幼稚園の経営難などが深刻化し、幼保の一元化に向けての動きが始まっている。

こうした社会的背景の下、認定こども園など幼保一元化施設の導入も開始されているが、施設整備指針や設置基準の再整備は未だになされていない。既存の管轄の基示される異なる法、基準を準拠する形で一元施設の整備を進めている状況である。

昨年度、本研究では公立私立幼稚園、公立私立保育所、認定こども園を対象に全国規模のアンケート調査を実施し、これらの施設を横断的、総合的に捉えた。これより、従来施設種別にしか把握されてこなかった就学前児童施設の状況が体系的に把握され、今後の施設整備の基となる資料を整理することが出来た。この結果から、施設規模、室数などの点で施設種別による違い

表1 こども施設に関する施設制度の整理 (前年度再掲)

	(認可) 保育所	(認定) こども園	幼稚園
根拠法令	児童福祉法第7条	就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律	学校教育法第1条
所轄	厚生労働省 (幼保連携推進室)		文部科学省
対象児童	乳児：1歳未満 幼児：1歳～小学校就学まで		3歳～小学校就学まで (2歳児の保育実施も可)
保育時間	原則：8時間 (家庭の状況に応じて変更)		原則：4時間 (預かり保育により延長可能)
職員免許	保育士資格証明書	0～2歳児：保育士資格 3～5歳児：幼稚園教諭免許と保育士資格の併有が望ましい (学級担任には幼稚園教諭免許保有者、長時間利用児対応は保育士資格の保有者を原則とする)	幼稚園教諭免許 (教員免許更新制あり)
室面積に関する設置基準	保育室または遊戯室 ・0歳児：人員×4.95㎡ ・1歳児：人員×3.30㎡ ・2歳児以上：人員×1.98㎡ 乳児室 満2歳に満たない幼児1人につき1.65㎡以上 ほふく室 満2歳に満たない幼児1人につき3.30㎡以上	県が定める認可基準によるものとする。一般には、幼稚園、保育所の現行基準に準拠するものとし、特別措置などが示されている。	園舎の面積 ・1学級：180㎡ ・2学級以上：320+100×(学級数-2)㎡

が見られたが、学齢別にみた保育室規模などについては施設種別による大きな差はないことが分かった^{文6)}。

現在急速な整備が望まれる保育所においては、保育環境を保全すべく設けられた保育室面積基準などを緩和するといった暫定的措置により保育需要に応えようとしている。しかし、こどもたちの健全な保育環境の保障という面から保育者、保護者からの反発も大きい。そこで対処療法的措置ではなく、科学的根拠に基

表2 アンケート調査概要 (前年度再掲)

調査対象の選定方法	保育所：「全国子育て支援ネットワーク「子育てネット」記載の公立私立認可保育所（合計23,599件）より各県から12.5%をランダム抽出。計2,950件 こども園：2008年4月1日現在で認定こども園として登録された全施設。計229件 幼稚園：「全国学校総覧2008年度版」記載の全国公立私立幼稚園より各県25%に当たる施設数をランダム抽出。計3,371件 配布対象施設合計：6,550件 ※保育室に関する質問は、参考として対象とする保育室の学齢を指定（不可能・都合が悪い等の場合は他の学齢について回答）して依頼した。
配付・回収方法	配付方法：郵送/発送時期：2008年7月末/回収時期：2008年8月11日 回収方法：返信用封筒による郵送。追加資料などの送付はFAXも利用。
設問の構成	アンケート調査では、大きく以下の3つのテーマで設問を構成している。 大問1) 施設全体について：敷地面積、延床面積、施設建物の階数、今年度の学齢別クラス数、諸室の数・面積、定員、現員、保育士（教諭）の人数、施設の広さに関する評価 大問2) 回答者が担当しているクラスまたは使用している保育室に関する状況について：クラス定員、クラス現員、クラスの担任数、保育室の面積、保育者の評価・印象（処遇規模に関する評価、諸活動に応じた保育室の広さ評価、保育室の印象）、保育室内の設え状況 大問3) 園児の活動について：遊びの種類、遊び集団の規模、理想的な処遇規模・密度 →本稿では、大問1および大問2より得られた回答を分析対象としている。
回答状況分析方法	保育所：483票、こども園：60票、幼稚園：383票が回収（2008年10月8日までの回収分） →内容を確認し、保育所・幼稚園から認定こども園または幼保一体化施設へ移行している施設に関しては、状況を電話等で確認の上、「こども園」として分析。幼稚園の延長保育などによる保育事業への取り組みや1、2歳児の受け入れについては「幼稚園」の少数事例として扱う。結果として、 保育所：482件、こども園：64件、幼稚園：380件 合計：926件のデータを分析対象とした。 なお、大問2では、それぞれの回答施設より以下の学齢の保育室およびクラスに関する回答が得られた（詳細は図9参照）。 保育所：0歳児クラス：35件、1歳児クラス：44件、2歳児クラス：67件、3歳児クラス：58件、4歳児クラス：51件、5歳児クラス：61件、混合：161件 こども園：0歳児クラス：6件、1歳児クラス：6件、2歳児クラス：9件、3歳児クラス：14件、4歳児クラス：11件、5歳児クラス：8件、混合：10件 幼稚園：3歳児クラス：79件、4歳児クラス：116件、5歳児クラス：131件、混合：38件

づいた保育環境基準の見直しが急がれる。

定行ら^{注1)}はこうした状況の下、主に保育所面積基準の見直しを目的として、「食寝分離」「単位空間」の考え方から保育室を分析し、保育面積への提案を行った。しかしその結果、現行基準を上回る面積基準を求めることとなった。また、この提案の幼稚園や認定こども園への展開という面は特に論じていない。

A. 2 目的

本研究ではこどもの健全な育成環境として、保育所、幼稚園、認定こども園（以下：こども施設（表1））を横断的に捉え、適切な空間規模に関して総合的に分析する。このうち本稿では、昨年度実施した全国こども施設アンケートを基に、主に保育者の視点から、学齢に対応した保育規模を処遇規模、面積規模の両面から分析し、保育者が理想とする保育規模を導き出すことを目的とする。

B. 調査概要

本研究において昨年度実施したアンケート調査については、昨年度の報告書および表2を用いて、本報告での説明を割愛する。

なお、本稿ではこのうち大問2保育室に関する回答および保育者から見た園児の活動に関する設問（大問3）を対象として、保育学齢別の分析を行った。その

ため、こども園については全体として得られた回答数が少なく学齢別に分析するサンプル数としては不足と判断し、今回の分析からは除外している。また、得られた回答の内、幼稚園の10.4%、保育所の33.8%を占める異学齢混合クラスは分析の対象から排除した。結果として、幼稚園：326クラス、保育所：316クラスを対象に分析を行った。

C. 保育者が理想とする処遇規模

保育者を対象として実施した上記アンケート調査より得られた回答の内、担任する学齢の園児に最も適した保育集団の人数を訪ねた結果を学齢別に図1に示す。この設問では、保育所の1、2、3歳児クラスのみで回

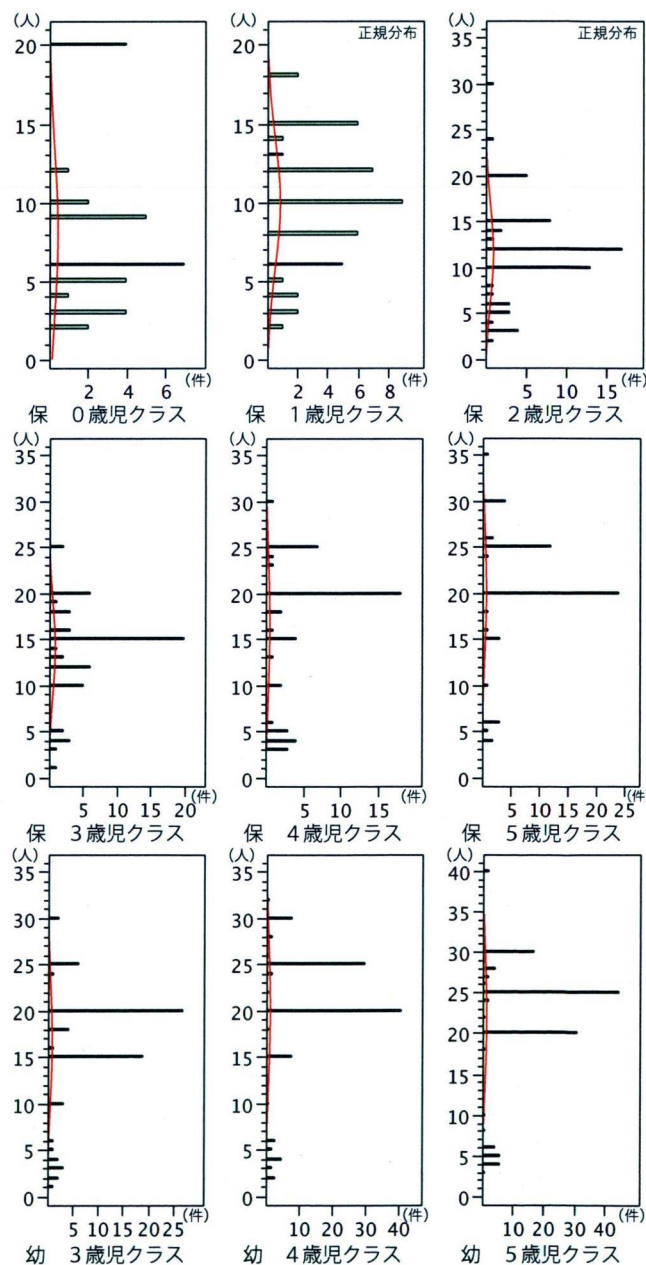


図1 理想とする処遇規模の分布 (幼稚園・保育所)

答が正規分布となったが、その他の学齢クラスおよび幼稚園では回答の分布が正規分布を示さない結果となった。これは、クラス集団の規模として回答するケースと、1人の保育者が処遇する規模として回答するケースがあったことなどによる結果と推察される。そのため平均値や中央値は、一般に複数人でクラスを担任することの多い保育所の0～2歳児クラスでは現行基準（保育士1人あたりの処遇人数）よりも多めの結果を示し、1人で担任するクラスが増えてくる3歳以上の学齢では、保育所、幼稚園共に現行基準^{注2)}を下回る結果となった。

処遇規模については、多くの学齢で正規分布を示さないため学齢クラス間および施設種別間の結果に生じる有意差の検定はできないが、仮に回答の半数が含まれる範囲（上下四分位の間）を抽出すると、保育所の5歳児クラス、幼稚園の4、5歳児クラスでは、いずれも一つの保育集団規模として20～25人を理想としていることが分かった（表3）。このことから現行基準の幼稚園の35名、保育所の30名という処遇規模は保育者にとって多すぎると評価されていることが窺える。

D. 保育者が理想とする保育室の1人あたり面積

次に、使用している保育室で担任している学齢園児を保育をする際に適していると思われる人数を訪ねた結果で、回答者が使用している保育室面積を除することから「理想保育室1人あたり面積」をそれぞれ算出した。その結果を図2、表4に示す。

これらの結果が正規分布によることから、t検定を用いて施設種別による有意差を検定した。その結果3、4、5歳児クラスでは幼稚園と保育所の間には有意な差が見られなかった。これは前年度報告した各回答クラスの保育室面積、保育室1人あたり面積、クラス現員などが同じ学齢で比較すると幼稚園と保育所の間には差が見られなかった結果とも関係を見ることが出来る。

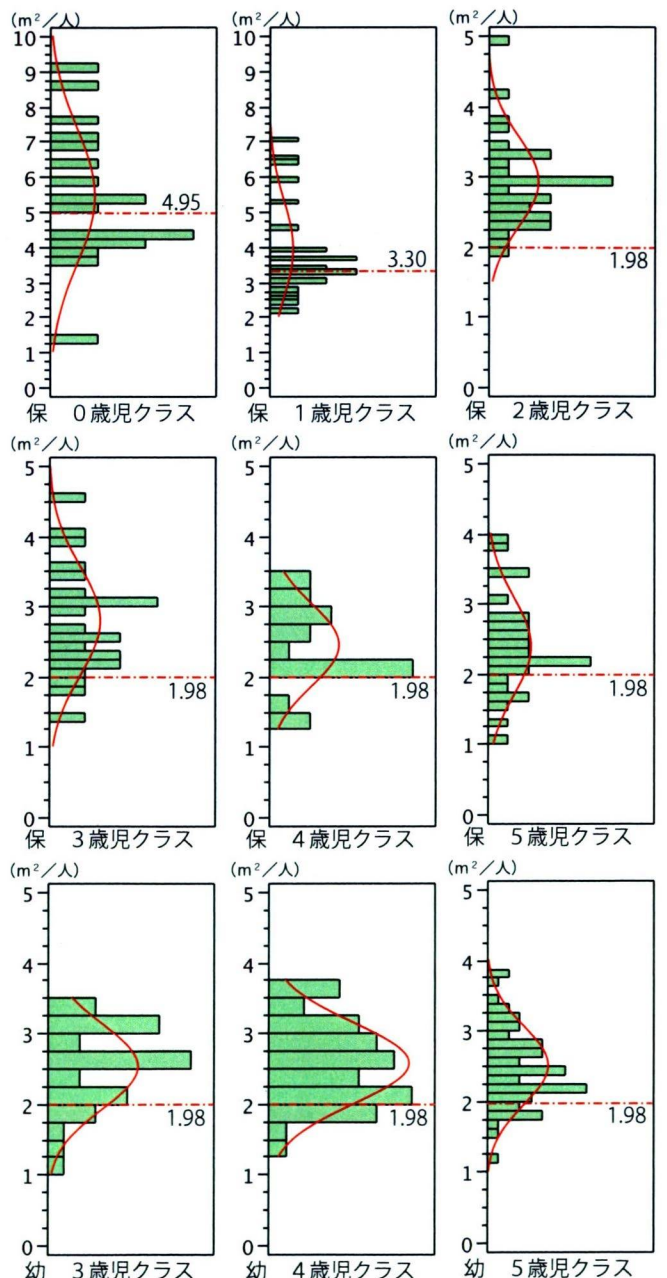
さらにTukeyのHSD検定を用いて学年間の有意差を見ると、保育所では2歳以上で理想とする保育室1人あたり面積に有意差が見られず、幼稚園では3～5歳の間に有意差はみられなかった。これは現行設置基準（表1）の区分に沿った結果とえる。

以上より、3～5歳については幼稚園と保育所を区別せず、その分布から回答の半数が含まれる範囲を抽出すると、理想の保育室1人あたり面積は2.11～2.95 m²/人となった。また、保育所0歳児クラス、1歳児クラスではいずれも回答の半数が含まれる範囲

表3 理想とする処遇規模（幼稚園・保育所）

	保 育 所			平均(N) 標準偏差	幼 稚 園		
	上側 四分位	下側 四分位	中央値				
0歳児 クラス	9.25	4.75	6.00	8.00(30) 5.44			
1歳児 クラス	12.00	6.00	10.00	9.91(43) 4.06			
2歳児 クラス	14.25	10.00	12.00	11.53(62) 5.27			
3歳児 クラス	16.00	12.00	15.00	13.91(56) 5.08	20.00	15.00	18.00 16.58(73) 6.59
4歳児 クラス	20.00	10.00	20.00	16.39(49) 7.63	25.00	20.00	20.00 19.90(112) 7.42
5歳児 クラス	25.00	20.00	20.00	20.20(56) 6.78	25.00	20.00	25.00 21.71(125) 7.98

保育所1, 2歳児クラスのみ正規分布



※グラフ中の---数値は保育所における各学齢保育室の現行基準値
図2 使用している保育室における理想とする保育室1人あたり面積の分布

に現行基準が含まれており、保育室面積の不足感はその学齢よりも少ないことがわかった(表5)。

E. まとめ

保育者を対象として全国の幼稚園、保育所、こども園に対して実施したアンケート調査から前年度示した結果を基に、本年度は保育者の視点で保育室および保育規模の在り方を分析・考察した。その結果、本調査研究から得られた結果を以下にまとめる。

1) 保育所と幼稚園の保育室の実態(保育室面積、1人あたり保育室面積、クラスの現員など)をそれぞれの学齢に分けて分析してみると、同じ学齢では両施設の間に有意な差は見られない(前年度分析より)。

2) 保育者が処遇する際に適切と考える理想的な保育集団の規模は、クラス集団として回答する場合と、1人の保育者が処遇する集団として回答する場合が見られた。仮に半数の回答者が含まれる範囲を抽出すると5歳児の幼稚園と保育所、幼稚園の4歳と5歳では20~25人が理想的な集団規模であることが分かった。

3) 保育者が現在使用している保育室に適していると考えられる人数から算出した「理想保育室1人あたり面積」の分布では、保育所の2歳児クラス以上および幼稚園3~5歳児クラスに有意な差は見られず、こども園の設置などにあたり検討が要される3歳以上については、幼保の区別を基準面積上行う必要性が低いことが示された。しかし、保育者が理想とする児童1人あたりの保育室面積は、現行基準ではやや不足傾向にあることも理解された。これは近年特に保育所で実施されている受け入れ定員数の緩和措置に対して更なる検討を要することを示しているといえる。また、少子化による定員確保が深刻化している幼稚園においては、延長保育、未就学児受け入れなどを含めた機能面、基準面での保育所との一元化への検討や、学級規模(保育集団の規模)の見直し^{注3)}を謀ることも必要といえよう。保育サービスの拡充と共に児童の安全・健全な保育環境を保障するためには、今後は保育室面積の有効な使い方など運営・運用面での工夫がさらに必要であると考えられる。

G. 研究発表

1. 論文発表

本稿は、日本建築学会技術報告集(査読論文集)に投稿を予定しており、現在他の結果と合わせ執筆中である。

	保 育 所				幼保3,4,5歳 統合			
	上側四分位	下側四分位	中央値	平均(N) 標準偏差	上側四分位	下側四分位	中央値	平均 標準偏差
0歳児クラス	6.89	4.11	5.23	5.43(18) 1.92	2.95	2.11	2.48	2.52(21) 0.62
1歳児クラス	4.56	3.02	3.43	3.92(23) 1.40	表5 3~5歳理想の保育室1人あたり面積			
2歳児クラス	3.31	2.48	2.88	2.92(31) 0.64	幼 稚 園			
3歳児クラス	3.25	2.16	2.64	2.78(22) 0.78	3.02	2.09	2.64	2.52(34) 0.60
4歳児クラス	2.94	2.12	2.35	2.44(20) 0.59	2.97	2.11	2.56	2.56(45) 0.58
5歳児クラス	2.71	2.00	2.25	2.39(29) 0.69	2.80	2.12	2.45	2.50(61) 0.55

注: 保育所、幼稚園間および学齢間で有意差が見られない(有意水準0.05)
学齢間の差の検定: TukeyのHSD検定 施設種別間の差の検定: t検定

表4 保育者の理想とする保育室の1人あたり面積(保育所・幼稚園学齢別)

2. 学会発表

本稿は2010年3月に開催を予定している「第2回こどもの「環境と空間」研究会」にてその成果を口頭発表する予定である。また、2010年日本建築学会大会で学術講演として発表する。

注1) 定行等は、「機能面に着目した保育所の環境・空間に係る調査研究委員会」において、観察調査などをもとに「食寝分離」を保障するために必要な空間を算出した。2歳未満児で一人当たり4.11m²(現行は3.3m²)、2歳以上児で2.43m²(同1.98m²)と、現行の面積基準以上の面積が必要との結果を出した(文献6)。

注2) 認可保育所においては、児童福祉法による児童福祉施設最低基準により、以下の児童数につき1人の保育士を配置するように定めている。乳児(0歳)3人、満1歳以上3歳未満6人、満3歳以上4歳未満20人、満4歳以上30人。一方幼稚園では一学級の定員を35人とし、1学級に1人以上の教諭の配置を定めている。

注3) 文部科学省は2010年1月、1学級40人としている公立小中学校の学級編成基準の見直しに向け準備を開始した。学級定員数の見直しは約30年ぶりとなる。

参考文献

- 1) 山田あすか・佐藤栄治・樋沼綾子・佐藤将之: 自治体と旗艦施設へのヒアリング調査による幼保一体化施設の運営実態に関する報告, 日本建築学会技術報告集, 第25号, pp.231-236, 2007.6
- 2) 藤田大輔, 山崎俊裕「幼稚園各室・空間における保育活動の時間的特性について」日本建築学会計画系論文集, 第599号, pp.203-208, 2006.1
- 3) 山田あすか・佐藤栄治・佐藤将之・樋沼綾子「幼保一体型施設における運営様態, 混合保育, 活動場所の変遷に関する研究」日本建築学会計画系論文集, 第625号, pp.543-550, 2008.3
- 4) 熊倉高志, 柳田武, 長野豊「平面分析からみた保育空間の面積構成について: 保育施設の環境整備に関する研究(その2)」日本建築学会大会学術講演会梗概集, E分冊, pp.459-460, 1986
- 5) 山田恵美, 佐藤将之, 山田あすか「自由遊びにおける園児の活動規模と遊びの種類およびコーナーの型に関する研究」日本建築

学会計画系論文集, 第 74 卷, 第 637 号, 2009.3

- 6) 機能面に着目した保育所の環境・空間に係る調査研究委員会 (委員長: 定行まり子), 「機能面に着目した保育所の環境・空間に係る研究事業 研究結果の概要」
- 7) 倉斗綾子・山田あすか・佐藤将之・古賀誉章「就学前保育施設の施設状況とその評価—全国保育施設アンケート調査より—」日本建築学会技術報告集, 第 31 号, pp.865-870, 2009.10

活動時の使用面積と保育者による広さ感評価からみた 保育施設の適正規模算出に関する試論

分担研究者：山田あすか(立命館大学工学部建築都市デザイン学科 講師)

協力研究者：宮本 朋和(立命館大学工学部建築都市デザイン学科 学部生)

本稿では、幼稚園・保育所を対象とし、園児の活動実態に基づいて、保育室の面積と保育者による広さ感評価の関係を分析し、保育室の面積規模の基準を導出することを目的とし、園児の活動実態からみた保育室の適正規模算出についての試論を示した。3～5歳児室での観察調査、保育者からの評価に関するヒアリング調査を行った結果、一部に各年齢、各活動でのクラス面積・1人あたり面積での評価境界を見いだした。今回の調査では事例数が少ないため、保育室全体やそれぞれの場面に適した面積を正確に導き出すことはできなかったが、保育室の適正規模の算定にあたっては、保育室全体の1人あたり面積のみならず、実際に遊びに使用される面積を十分に確保されるような誘導や設えの重要性が指摘できた。

A. 研究目的

就労等、男女が共同して社会に参画する社会システムの実現や、核家族化のすすむなかでの子育てと社会参画の両立の実現のため、保育施設の拡充が切望されている。とりわけ、就学前の保育施設は特に都市部において不足が指摘されているものの、保育所は待機児童問題、幼稚園は空き教室問題を抱えるなど両者のニーズ乖離は明らかである。こうした問題を解決するため、幼稚園と保育所の機能を併せ持つ「認定こども園」が法制度化されたが、その設置基準には地方裁量・自治体裁量の名の下に曖昧な点が残る。

そもそも、現在の就学前保育施設の人的・面積的規模には、「畳」単位に由来すると思われる数値が散見されたり、充足すべき面積の根拠が示されていないなど、明確な根拠に基づいて定められているとは言えない。また、保育所は児童1人あたり面積、幼稚園はクラス数あたり面積で基準がつけられており、両者の基準が統一されていないことは、認定こども園の基準の曖昧さや幼保一元化の妨げの一因ともなっている。

近年の保育ニーズの増加によってさらなる保育施設

の増加が見込まれ、乳幼児に適切な発達環境を保障しうる、幼保の一体化を見据えた適正規模の算出は急務の課題である。

本稿では、幼稚園・保育所を対象とし、園児の活動実態に基づいて、保育室の面積と保育者による広さ感評価の関係を分析し、保育室の面積規模の基準を導出することを目的とする。

B. 調査・分析概要

以下、調査対象施設の概要、調査対象施設の位置づけ、調査方法、活動面積範囲の抽出について述べる。

B. 1 調査対象施設の選定

本稿の調査対象は、全国の幼稚園・保育所へのアンケート調査を元に、保育室面積とクラスの園児人数(園児1人あたり面積)の分布を作成し、それぞれの平均値以下・以上の4類型から調査対象を選定するという方式により抽出した(図1)。保育所の場合には、保育室面積とクラスの園児数にはおおまかに比例の関係